

ふるさと大竹の歴史探訪

西国街道を訪ねて

「大竹市の歴史は浅いのでは」という声をよく聞きます。

確かに、発見された古墳などは見当たりません。しかし、古代から連続と続く郷土の歴史の痕跡や記録は、市内のいたる所にあふれています。

その一部分の紹介として「ふるさと大竹の歴史探訪」西国街道(旧山陽道)を訪ねて」と題し、市広報で平成22年の3月号から一年間お伝えしました。

さて、山陽道とは、千年以上昔の律令国家の時代に造られた、唯一の「大路」でした。山陽道は、畿内の都と太宰府(九州)を結んでいたのです。中世には、地方分権的な傾向が強くなり、街道の管理もまちまちでした。

近世(江戸時代)に入ると、山陽道は再び、政治の中心地江戸と、対外交流の窓口である長崎を結ぶ主要な道路となり、西国街道とも呼ばれるようになりました。

天下の街道・西国街道(旧山陽道)は、市内木野一丁目から玖波三丁目の鳴川までの約8kmを縦断していました。

その旧跡を、国境であった木野川渡し場跡から、順路を追って

お伝えしていきます。市内の遺構や文化財に少しでも関心を持っていただければ幸いです。

- 凡例
- 1) 縮尺 1/25000 の地図に太線と点線で西国街道(旧山陽道)を示します。(江戸時代後期のルート)
 - 実践は当時のままのところ
 - … 点線は当時の道が失われたところを示します。
 - 2) 図中の印は次の分類によります。
 - 印は一里塚・本陣・峠・渡し場等の交通関係
 - △印は戦跡・城跡・史跡関係などを広域で示す
 - 印は寺院・神社
 - ◇印は伝説・名勝・歌碑・資料など
 - ※遺構が存在しないもの

この地図は、国土地理院発行の縮尺 1/25000 の地形図(大竹～玖波)を使用したものです。

西国街道(旧山陽道)大竹路 案内図



文中の「行程記」(絵地図) 説明

明和元(1764)年頃に萩藩絵図方によって作られた絵地図。この行程記には方位・一里塚・町並・神社仏閣など旅に必要な情報が網羅されている。(中央に折り曲げて見るようになっている) 絵地図は鮮やかな色彩で描かれ説明もされている。(山口県文書館所蔵)

太宰府一律令制で筑前国(福岡県太宰府市観世音寺)に置かれた役所。この役所は、九州の内政と内外使節の送迎や海辺防備に当たった。

